くらしは文化 no.78

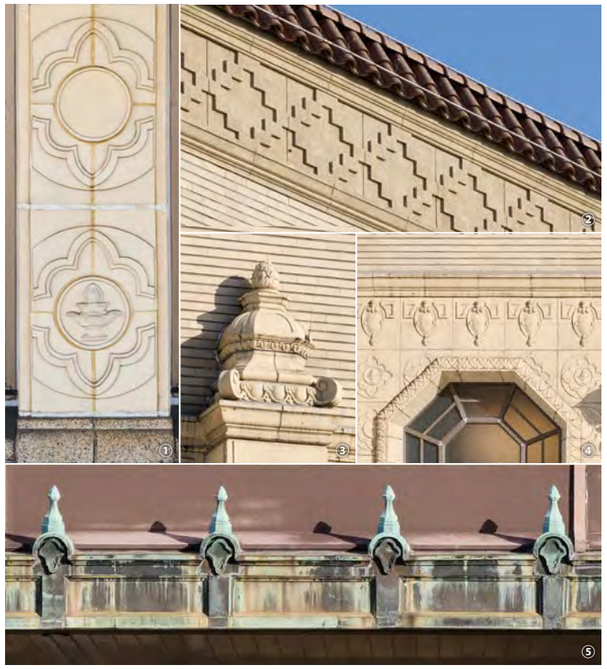
三重県伊勢市

近鉄宇治山田駅本屋

神都・伊勢の玄関口で威容を誇る昭和初期竣工の駅舎

三重県伊勢市の近鉄宇治山田駅本屋は昭和6（1931）年竣工。元鉄道省建築課長・久野（くの）節（みさお）の設計で、長大な駅舎にはスペインなど、ヨーロッパの建築意匠がちりばめられている。伊勢神宮参拝の最寄り駅の一つとして多くの人が利用する。国登録有形文化財。中部の駅百選。

近鉄 宇治山田駅のコンコースは開放感のある吹き抜け空間。モダンな八角形の明かり取り窓や天井・柱周りの装飾が上品な雰囲気を醸し出している。



外観に見られる装飾の数々。①出入口横にある窓の柱。②駅舎上部のスペイン風の瓦と幾何学模様の壁面。③付け柱上部のテラコッタ。④明かり取り窓の周囲。⑤出入口のひさしに並ぶ銅板製の装飾。

⑥転車台。⑦転車台は3階にある。⑧スロープを上がってきたバスが方向転換（当時）。⑨かつては1番線ホーム横から賢島行き特急バスに乗車できた。

近鉄 宇治山田駅は、昭和5(1930）年に開催された御遷宮奉祝神都博覧会の跡地に、参宮急行電鉄の終着駅として昭和6年に建設された。鉄骨鉄筋コンクリート造3階建（一部5階建）、間口約120mという長大な駅舎の3階に高架線ホームがある。駅舎上部はスペイン風の瓦で縁取り、外壁はクリーム色のタイルや建築用テラコッタで仕上げた。出入口でも面取りした付け柱や華麗な意匠のテラコッタなど、ヨーロッパスタイルのしつらえが乗客を迎える。1階コンコースは2階まで吹き抜けとなり、天井高のある空間に八角形の明かり取り窓から外光が差し込む。2階には改札口や団体待合室のほか、駅員用の宿泊施設もある。

設計者・久野 節は、当駅舎の前年に手掛けた南海ビルディング（現高島屋大阪店。国登録有形文化財）でもテラコッタを多用。こうした美しい装飾のビルは大正末期～昭和初期に多く建てられている。久野は伊勢神宮が鎮座する伊勢市の玄関口にふさわしい、先進的で風格ある駅舎をめざしたといわれている。

駅舎南西端には塔屋が建ち上がるが、昭和11年から宇治山田市（現伊勢市）消防組常備部が借り受けて本部を置き、当番員が昼夜の監視警戒を行って火の見櫓（やぐら）の役も果たした。

また、3階の1番線ホーム横に賢島行き特急バスのために造られたスロープと方向転換用の転車台が残されている。昭和36年～46年に特急と連絡するバスを運行し、旅客の利便を図った。その後、昭和60年～平成6（1994）年には定期観光バスが発着した。

平成5年にはバリアフリー化を含む全面改修を実施。竣工90年余を経た今日も、伊勢神宮を参拝する皇室関係者や内閣総理大臣などを迎える駅であり、また、一般乗降客や多くの鉄道ファンから愛される駅である。

ヨーロッパ風の装飾で彩られた駅舎。当時は終着駅だったが将来の延伸を見据えていたとされる。昭和6年の竣工でありながら高架線ホームが3階にある。

出入口では面取りしたように柱角を加工した付け柱（写真左）と建築用テラコッタによる繊細な装飾が目を引く。90年を超える長い年月、伊勢の玄関口として機能している。

市街地へ眺望がきく塔屋は火の見櫓として活用された期間もあった。
3階に停車する観光特急「しまかぜ」は大阪や京都、名古屋と賢島を結ぶ。

現在は高架になっているところにあった
伊勢市消防本部および消防署。

用語説明

【中部の駅百選】鉄道の日記念行事の一環として国土交通省が実施。1999年から4年間、駅舎の保存価値が高いなどを選定基準として毎年25駅を選定した。

【御遷宮奉祝神都博覧会】昭和5年、前年の第58回式年遷宮を記念して神都公会堂前（現近鉄 宇治山田駅前）で開催。

【参宮急行電鉄】大阪電気軌道（後の近畿日本鉄道）が昭和2年に設立。大阪電気軌道および参宮急行電鉄は昭和6年、上本町・宇治山田間の直通運転を開始し、さらに名古屋への進出をめざした。

【宇治山田市消防組常備部】昭和24年には宇治山田市消防本部（署）が発足。昭和43年に宇治山田駅舎から移転。（伊勢市消防本部『消防年報』令和3年度版）

三重県伊勢市岩渕2丁目1
協力：近畿日本鉄道株式会社、伊勢市

くらしは文化バックナンバー